



植え穴掘り。植穴のサイズは直径30cm 深さ30cm。植栽間隔は2m×2.5mでした

中央政府、ラオカイ省政府それぞれに本件植林事業に関する作業グループが設けられており、苗の準備や品質の確認等は、ラオカイ省政府の作業グループにおいて、入念なチェックが行われました。また、現地での植林にあたって、前述の穴の寸法や穴の間の距離など、「植え穴掘り」と「植え付け」に関する技術的ガイダンスをナンサンコミュニティの世帯に提供して作業が進められました。さらに、植栽後に作業グループが植栽場所をチェックして、当初の技術的設計に従って正しく植林されていることを確認したとのことです。



苗木の運搬。苗木は約40cm～50cmで通直なものが選別された

3. 植栽樹種及び本数
植栽樹種及び本数は、馬尾松(別名タイワンアカマツ) 約2万7,000本、カントンアブラギリ約3,000本の合計3万本です。
以前に情報として、「馬尾松とカントンアブラギリの混植で植林本数は3万本」とお伝えしてきました。今般の植林では現地を正確に確認した結果、礫地など植林困難な場所を除外する必要が生じたため、馬尾松2万7,000本となりました。
なお、本稿執筆には詳細な事実確認が間に合わなかったのですが、10月～11月にカントンアブラギリの種子の直播(苗木ではなく)により3,000本の造成が無事に終わり、合計3万本の植栽が終了しています。
この3,000本のカントンアブラギリは、馬尾松を取り囲む形で種子が撒かれています。このような形で混植が行われる理由は、本件植林地の境界を周りから明確にするのが



植林現場と馬尾松の植林風景

4. 苗の成長見込み及び今後の対応
主目的でしたが、結果として、単一樹種の植栽ではなく多様性を持った森林が造成されることとなります。
以前に情報として、両樹種とも植林1年後には、樹高2m程度にまで成長するものとお伝えしてまいりました。しかし、馬尾松は1年後には1.5～2m程度になる見込みですが、カントンアブラギリは直播のため、1年後の樹高は30～40cm程度に止まるとのことです。(ただし、成木になれば樹高約10mになる予定です。)
今後の対応ですが、2025年3月までの事業実施計画に基づいて、1年目の植林に次いで、2年目以降には育林及び施肥等を実施し、必要に応じて2年目に補植を行う予定です。
本件の植林事業が今後進捗した際

② NPO法人熱帯森林保護団体
ギョー政策転換提言・普及啓発活動)
① 認定NPO法人FoE Japan
(パリ協定時代に気候危機に立ち向かう地球温暖化対策強化及びエネルギー政策転換提言・普及啓発活動)
SMBCファイナンスサービス株式会社(株式会社セディナが合併により社名変更)の「地球にやさしいカード」からの寄付金を財源とする2021年度助成対象団体の選定については、昨年8～9月に応募があった16団体を対象に、11月の審議委員会の慎重な審査を経て、12月の理事会において14団体の事業に助成することが決まりました。

「地球にやさしいカード」の2021年度助成14団体決まる



ワーキンググループ担当者による植林状況のチェック

には、本紙「緑の地球新聞」等を通して、皆さまに御報告する予定です。

(ブラジル・カポトジャリーナ先住民保護区における消火、防火を目的とする消防団事業)

③ NPO法人尾瀬自然保護ネット

フーク(自然環境教育事業、尾瀬の自然保護に関する調査研究事業、自然環境保護に関する普及啓発事業)

④ NPO法人立山自然保護ネットワーク

(立山黒部アルペンルート沿線の外来植物除去事業及び啓発活動)

⑤ NPO法人夏花

(石垣島白保地区におけるサンゴ礁保全活動―グリーンベルト植栽活動と赤土堆積量調査、海域サンゴ礁調査―)

⑥ 認定NPO法人ヒマラヤ保全協会

(ネパール中部ダウラギリ地方における果樹栽培の持続型アグロフォレストリーの展開)

⑦ NPO法人サンクチュアリエヌ

新年あけましておめでとございます。

昨年を振り返ると、中国・武漢で発生した「新型コロナウイルス」で始まり、ウイルスで終わる一年でした。このウイルスは、アジアからヨーロッパそしてアメリカ大陸までたちまちのうちに感染が広がり、感染者数は7,000万人、死者は160万人を超える被害が出てしまいました。世界各国の国境を閉鎖され、すべての物流がとまり世界経済が急速に落ち込み、アメリカ大統領選挙では最大の選挙争点にまでなりました。まるで悪夢のような恐ろしい一年

ピーオー(遠州灘海岸におけるアカウミガメと産卵地の環境保護と調査活動)

⑧ NPO法人桶ヶ谷沼を考える会

(トンボの種の保全と自然環境を守る) 上総自然学校 (トンボの保護区を守る)

⑩ 認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金

(アフリカゾウ密猟防止)

⑪ 真庭遺産研究会

(真庭清流自然学校によるオオサンショウウオの日本最大級の生息地での環境保全活動)

⑫ 虹別ココロカミイの会

(シマフクロウ繁殖と河畔林造成)

⑬ 熱帯林行動ネットワーク

(インドネシアにおけるオランウータン保護活動の基盤強化に向けた植林活動)

⑭ NPO法人NPOクワガタ探検隊

が早く過ぎ去って欲しいと、一縷の望みを「ワクチン」に託して努力してきましたが、今年も人も物も活発に動ける地球を取り戻さなければなら

新年のご挨拶

公益財団法人 緑の地球防衛基金 理事長 大石 正光

りません。「アメリカファースト」の言葉で自由貿易に劇的な変化が起きました。バイデン大統領の誕生で、自由貿易体制が復活できるかもしれ

(大都市大阪の里山に舞え！未来の森の守り人)

当財団が、1990年度に、株式会社ダイエー・ファイナンス(当時)と協力し、「エコロジーカード」(現在の「地球にやさしいカード」)の

カード売上高の0.5%相当額を原資とする助成事業を開始してから、30年が経過しました。

この間「地球にやさしいカード」からの寄附金を原資とする助成金は、国内外の様々な分野の環境保護事業において多大な成果を挙げてきました。

当財団は、今後もSMBCFアイナンスサービス株式会社と協力し、国内外において様々な環境保護活動を行う団体を支援していく考えです。

2019年度の温室効果ガス排出量は前年度比2.7%減少し過去最少

2020年12月、環境省は2019年度の我が国の温室効果ガス排出量(速報値)を公表しました。2019年度の温室効果ガス排出量は12億1,300万トン(CO2換算)で、前年度から2.7%減少しました。2014年度以降6年連続での減少で、排出量の算定を始めた1990年度以降、過去最少を更新しました。

温室効果ガス排出量の減少要因としては、再生可能エネルギー(太陽光発電など)の導入が広がったことや、米中貿易摩擦の影響で製造業の生産量の減少、記録的な暖冬が影響したとのこと。

2020年度の数値は、2013年度に比較して14.0%の減少となり、「温室効果ガス排出量を2030年度までに2013年度比で26%削減する」との政府の従来目標は、今のペースが続けば達成できる見通しであるとのこと。しかし、政府は新たに、2050年に温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラルの実現」を打ち出しました。小泉環境相は、このままでは「到底達成できない。」として、新たな技術革新などが必要との考えを示しています。

「環境危機時計」、過去最悪の9時47分となり、有識者の高い危機意識が示される

環境悪化による人類存続の危機を、世界の有識者等はどう認識しているのでしょうか。

9月8日に公益財団法人「旭硝子財団」が2020（令和2）年のアンケート調査結果を公表しました。調査は1992（平成4）年より毎年実施されており、2020年は世界137か国1,813名から回答がありました。

環境悪化による人類滅亡の時刻を12時とする「環境危機時計」の世界全体での値は、2020年は過去最悪の2018年と同じ数値となり、2019年の9時46分も含めて、3年連続で有識者の高い危機意識が示されました。（過去6年間の世界全体の危機時刻の推移は表のとおりです。）

調査開始以降の時刻を見ますと、1992年は7時49分でしたが、翌1993年に8時19分と8時台になり、1997年の9時4分以降は9時台が続き、「極めて不安」の領域が続いています。

地域別に見ますと、危機意識が高い北米（10時33分）とオセアニア（10時20分）が10時台を示し、西欧（9時59分）、日本（9時46分）、アジア（9時44分）がそれに続き、アフリカ（8

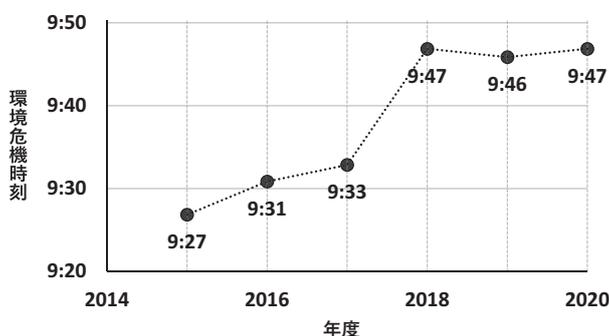
時34分）は唯一8時台に留まりました。

日本の値を見ますと、2017年9時11分、2018年9時31分、2019年9時39分、2020年9時46分と、近年大きく時計の針が進み、危機意識が高まっています。

個々の環境問題に対する危機感を時刻からみると、最も深刻だと思われる問題の1位は「生物多様性」で9時57分、次いで「気候変動」が9時52分、3位は「環境汚染」で9時50分でした。

一方で、2019年度の調査から、「環境問題への取組に改善の兆しは見られるか」との設問が設けられており、脱炭素社会への転換について、「転換は進んでいる」ととらえている人が多いことが示されました。

表 過去6年間の危機時刻の経年変化（世界全体）



たくさんのお使用済み切手などありがとうございました

使用済み切手等売上表
(9月16日～12月11日)

未使用テレホンカード	0円
未使用／使用済み切手	126,719円
未使用／書き損じハガキ	0円
外国コイン&紙幣	3,100円
合計	129,819円

使用済み切手等協力者

(9月16日～12月11日敬称略)

芦田廣、市川浩一、慶田紫都子、氏家恭子、笠間仁保子、亀田康子、國本ゆかり、黒澤一雅、黒澤千枝子、孝田莊屋、中野寿人、深見和代、福島靖幸、福田順子、三田京子、宮本健吾、安田憲俊、山口元子、山本幸枝、山本良一、結城春枝、匿名

同法人・団体協力者

(9月16日～12月11日敬称略)

あいおいニッセイ同和損害保険(株)、(株)朝日工業社、安藤産業(株)、(株)ECC、岩田地崎建設(株)、宇佐ながすライオンズクラブ、(株)オーイーシー、(株)オーバル、鹿島建設(株)、共和食品(株)、クラシテ(株)、(株)クリエートコーポレーション、小杉造園(株)、(株)さくら工業所、三洋テクノマリン(株)、シーキューブ(株)、清水建設(株)安全環境本部、(株)新

事務局からのお知らせ

全国の皆さま、いつも使用済み切手などをお送り下さりありがとうございます。
当基金では、皆さまからお送りいただいた「未使用／使用済み切手」「未使用／書き損じハガキ」「外国コイン&紙幣」の売上金を植林活動等に役立てています。
この時期、余った年賀状、書き損じの年賀状がありましたら、ご協力の程お願いいたします。

寄付協力者

(9月16日～12月11日敬称略)

飯塚友康、(株)ECC、石本信二、S M B C ファイナンスサービス(株)、大瀨清孝、(株)正宝住販、田中和子、幅田博樹、ボランティアアベンダー協会、森口修

開トランスポートシステムズ、新光電気工業(株)、生長の家岩手県教化部白鳩会、生長の家白鳩会東京第二教区連合会、ダイジク(株)、大成建設(株)横浜支店、「小さな親切」運動本部、有限責任監査法人トーマツ、戸田建設(株)、中津沖代ライオンズクラブ、名古屋市社会福祉協議会ボランティアアセクター、ニッパツ・メック(株)、(二社)日本有機資源協会、富士通(株)、富士通エフ・アイ・ピー・システムズ(株)、(株)松村組、三井化学アグロ(株)、(社)箕面市社会福祉協議会、ミヤ通信工業(株)、(株)ミライトテクノロジー・緑の会、(株)むさしのメタル、リコークリエティブサービス(株)